

がんの特殊な治療法

～アブレーション治療～



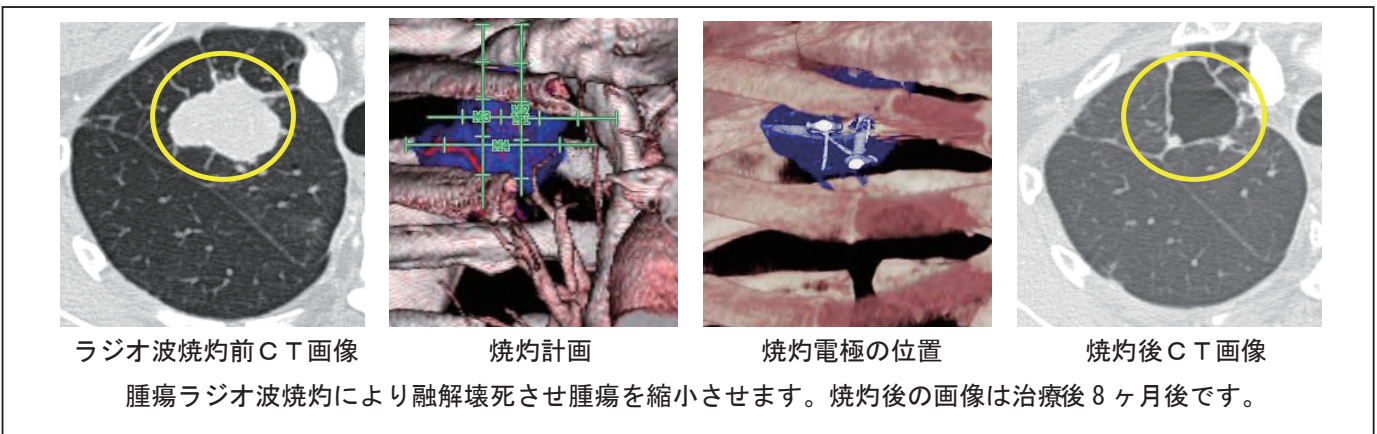
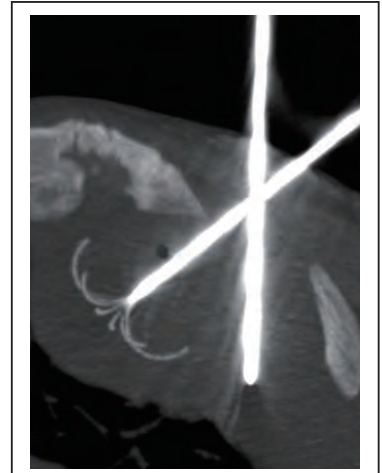
放射線 IVR 科部長
西村 潤一 医師

一般的にがん治療で思い浮かべることは手術療法と化学療法では無いかと思えます。このほかに放射線療法もよく耳にされると思えます。私どもの川崎幸病院でも、手術療法には外科や泌尿器科など、化学療法には腫瘍内科並びに消化器内科、放射線療法には放射線治療センターと整備されております。

しかし、手術療法、放射線療法と同じがんに対する局所療法としてラジオ波焼灼や凍結療法などのアブレーションといわれる治療方法があることはそれほど知られていないと思えます。今日はそのご紹介をしたいと思えます。

●ラジオ波焼灼術

ラジオ波焼灼術は体に刺した電極より高周波の電気を流し、その周囲を加熱し組織を死に至らせます。実は肝臓癌ではすでに保険診療で行われ、メジャーな治療法となっております。海外では肝臓癌のみならず肺癌、腎癌、骨転移でアメリカ食品医薬品局 (Food and Drug Administration、FDA) の認可を得ており、安全性とその効果については十分に議論されています。



ラジオ波焼灼前CT画像

焼灼計画

焼灼電極の位置

焼灼後CT画像

腫瘍ラジオ波焼灼により融解壊死させ腫瘍を縮小させます。焼灼後の画像は治療後8ヶ月後です。

●凍結療法

凍結療法は刺入した特殊な針の中に高压ガスを噴出させ、周囲の組織をマイナス185度以下に凍結させ、組織を死に至らしめます。本邦でも肝がん、腎癌、肺癌、骨転移などで行われていますが、まだ保険診療は行われていません。

ラジオ波焼灼と凍結療法との間には一長一短がありますが、どちらも繰り返し行うことができます。放射線治療も放射線を使用した一種のアブレーションと考えることができますが、同じ場所への繰り返し治療は難しいのが現状です。

がんの大きさや存在部位(特に隣接臓器との関係で)施行が難しいこと、まだ肝臓癌以外では保険診療が行われていない治療法であることが現時点での問題点ではあります。

私たち川崎幸病院では、総合的ながん治療の提供を目指しております。3大治療と呼ばれる、外科療法、放射線療法、化学療法(抗がん剤)はもちろんですが、その狭間を埋める治療法で、患者様の利益になる治療法は積極的に取り入れて参ります。すでに、肺癌、骨転移においてはラジオ波焼灼の経験が充分にある医師が常勤しております。その適応についてはいささか難しい面もありますので、まずはご相談頂ければと思います。



社会医療法人財団 石心会

川崎幸病院

川崎市幸区大宮町31番27
044-544-4611 (代表)